

## 地域に根差した和牛繁殖センターへの取組支援

：飯田家保 大津奈央

2016年6月に地域の黒毛和種肥育素牛確保を担う施設として、飼料製造販売会社が和牛繁殖センターを設立。農協の空畜舎を改修し、徐々に牛を確保して運営・管理。センター立上げにあたって、農協及び家保に支援要請、家保は高収益型畜産推進事業を活用して毎月計画的にセンターを訪問、代謝プロファイルテスト（MPT）、繁殖検診等を実施。MPTは初回授精前の育成牛延べ44頭、分娩前後の繁殖雌牛延べ23頭実施。繁殖検診は41頭延べ71回実施、うち32頭の受胎を確認。月1回関係機関が集まり検討会を開催、検討会当日に牛の栄養度・体高測定とMPT・繁殖検診の結果を総合的に検討、牛の状態に応じた飼料設計や飼養管理の変更を実施。2017年11月現在、繁殖雌牛43頭飼育、うち10頭分娩、平均授精回数1.95回。今後は、肥育素子牛の育成に支援を行うとともに、分娩監視装置・牛群管理システム等ICTの有効性検証やここで得られたMPT等の知見を地元繁殖農家にも還元したい。